

“真の父母様と一つになれば成せないことはない”

天正宮博物館でクリスマス晩餐会

韓国・清平の天正宮博物館で2015年12月25日、真のお母様をお迎えして「真の父母様招請 クリスマス晩餐会」が開かれました。日本からは宋龍天・全国祝福家庭総連合会総会長ご夫妻と徳野英治会長ご夫妻をはじめ、12双と777双の先輩家庭、教区婦人代表など計130人が参加。真のお母様との“親子”としての心情の絆を深める大きな恵みの場となりました。(報告 復興局長 安榮燮)

日本からの参加者一行は同24日午後、清平ビレッジに到着。夕食を済ませ、午後7時30分から宋総会長ご夫妻をお迎えして集会を持ちました。

集会で、李海玉総会長夫人は「日本で母の国の使命を果たすため、とてもご苦労されている婦人代表の方々を真の父母様はここに呼んで下さいました。真のお母様は本当に私たち子女一人ひとりを愛し、慕いながら生活されています」と指摘。

その上で、「私がラスベガスにいる時に感じたことがあります。今まで真の父母様をお慕いしながら生活していたと思っていましたが、そうではありませんでした。真の父母様が私を慕っておられるということに気付いたのです。母親が幼子の世話をするように、真の父母様が成長できない私たちを世話するように慕っておられると感じました。早く成長して父母様に心配かけない責任者、食口にならないければなりません」と語られました。

一方、宋総会長は、昨年12月上旬にラスベガスで日韓米の責任者が特別研修ツアーを行った際、真の父母様が主宰されたユンノリ大会で日本チームが1位になったエピソードを紹介。「日本チームの勝利の掛け声が『私たちは一つだ』でした。真のお母様もとても好まれる言葉です。私たちが真の父母様と一つになれば成せないことはありません」と語って下さいました。

婦人代表と共に2015年の1年間を整理し、16年度における勝利を決意する時間を持って、この日の日程を終えました。

◇ ◇ ◇
25日の朝、清平ビレッジの大講堂で、宋総会長、徳野会長を中心に日本から参加者が集まり、今回のクリスマス晩餐会に招待して下さった真の父母様の心情を共有する時間を持ちました。

また、李総会長夫人が、真の父母様のお写真の中に出てくる果樹園で収穫されたりんごを1つずつ下さりながら天運を相続して下さいました。

天運を受けた私たちは、天宙清平修練苑を訪れて祈禱を捧げました。



修練苑近くの食堂で昼食をとった後、真のお父様の聖体が安置されている「本郷苑」に参拝しました。参加者を代表して古田元男先生が花輪を捧げ、小山田秀生先生が代表報告祈禱。全体で敬礼を捧げ、全員がバラの花を1本ずつ献花しました。その後、一行はクリスマス晩餐会が行われる天正宮博物館に移動しました。

晩餐会では、まず真のお母様が最近下さったみ言を整理したビデオが上映され、和やか晩餐のひと時が持たれました。

第2部では、韓国の教区長チームが歌と踊りを披露。日

本の青年チームは6番目に登場し、歌と踊りを精誠を込めて捧げ、最優秀の「真の父母様賞」を受賞しました。日本の青年10人には、景品として真のお母様が準備されたハンドバックが贈られました。

晩餐会が終わると、真のお母様は日本から来た130人を訓誡会室に集められ、み言を下下さいました。とても熱く濃密なみ言と深い恩恵の時間となりました(5・6面に関連記事)。

日本からの参加者たちは、「今日は真の父母様の恩恵で夢のような時間を送りました。今回のエンターテインメン

トを準備したチームは精誠を尽くして準備したのだと感じました」「真の父母様の細やかな配慮を通して、今まで感じることでできなかった熱い心を感じる事ができました」といった感想を述べていました。

25日の晩餐会を終え、参加者たちは38年ぶりに出た「ラッキームーン」(クリスマスに上る満月)を仰ぎ見ながら、み言と共に深い感銘を受けました。

26日はソウルの漢南洞公館に立ち寄り、真の父母様が精誠を立ててこられた聖地を訪問した後、日本に帰国しました。



①真のお母様から記念品を受け取った日本の青年チーム ②出し物に拍手を送る真のお母様と子女様 ③韓国の教区長チーム
④天正宮博物館の警護チーム ⑤歌を披露する女の子たち

【参加者の感想】

■約 22 年前、日本女性 16 万名教育特別修練会で真のお父様から直接にみ言を受け、真の父母様の価値を知りましたが、お母様とはそのような経験がありませんでした。今回の集会を通して、母親が娘に教えるようにゆっくり心情的に真のお母様の生活や生涯、そして深い心情世界について教えて下さいました。このような時間を通して、真のお母様を肉親の母のようにとても近く感じることができ、本当に大きな恩恵を受けました。

■真のお母様が教会周辺で起こっていることに言及されながら、「横を見ないで私を見なさい。私と一つにならなければなりません」と語られた内容が印象的でした。私自身の責任分担を通して少しずつ真の父母様の深い心情世界も分かるのだと感ずることができました。このような深い恩恵を下されたことに心から感謝いたします。真の父母様、ご安泰（万寿無窮）下さい。真の父母様と心情的に近くに感じることができるよう準備して下さった真の父母様と宋龍天総会長に心から感謝いたします。



①日本からの参加者にみ言を語られる真のお母様
②③真のお母様を中心に記念撮影する婦人代表たち
④真のお母様に歌を捧げる日本からの参加者
⑤⑥⑦⑧ソウルの漢南洞公館を訪問した参加者一行

真のお母様のみ言

“真実が伝わっていく時代、天が共にある私達は必ず発展する”

2015年12月25日、天正宮博物館

以下のみ言は、昨年12月25日、韓国・清平の天正宮博物館で行われた「真の父母様招請 クリスマス晩餐会」の終了後、真のお母様が日本からの参加者に語られた内容を日本語に翻訳し、一部を抜粋したものです。

* * *

私たちは幸せな者たちです。皆さんが人間的に、子女の立場として家に帰れば、まず最初に誰を探しますか？ お母さんでしょう。「オンマ」と言って、お母さんがいるから子供たちは「幸せだ」というでしょう。皆さんが実績を持って「お母様、〇〇がこれを成して訪ねて来ました！」と言ってくれたとすれば、私はどのような姿で、どのような顔で皆さんを迎えるでしょうか？ 気になるでしょう。そのような日が一日でも多くあったらいいのと思っています。

清平は全世界の人類の本郷の地です。真の父母様の故郷は他にもありますが、ここは本郷の地なのです。皆さん実感できますか？

ですから全世界の食口たちがここを目指して、清平に向かって絶え間なく訪ねてくる、暮らしてみたいと言ってやってくるのです。（その人たちに対して）皆さんが精誠を立てて、見せてあげることができる（「天地鮮鶴苑」に責任を持つのです）。

73億の人類に真の父母様がどのような姿であり、どのような実績を、どのような文化をつくって行かれたのかということ、何十年、何百年先の後孫にまで見せてあげることができなければなりません。それができなければかわいそうな人類になってしまうのです。

そのような観点から見つめて歩まなければなりません。皆さんたちの立場が喜んで幸せだとしたら、皆さんのような感情、皆さんのような愛を感じることですべての人類になるべきではないでしょうか？ わかりますか？

そうだとすれば、私が健康で100歳まで生きたとすれば、私が73歳だから、残り27年で一つの世界を築くことができますか？ 私一人では成すことができません。皆さんの力が（必要であり）、皆さんが責任を果たしてくれなければ難しいのです。

皆さんに与えられた神氏族メシヤの責任を果たすことができれば、天の父母様を受け入れることのできる国をつくることのできるのです。日本の国が復帰されれば、韓国もそのようにな

り、アメリカもそのようになるのです。世界が一瞬のうちに統一されるようになるのです。その奇跡のような事実を成せるかどうかは、私たちの手にかかっているのです。

皆さんが真の愛を分かち合うようになれば、全世界が皆さんのような心情文化世界、一つの世界を持つようになり、真の父母様が生きておられる間に私に会うようにしなければなりません。

皆さんと私が会っているといないとは、心情的な距離があるのでしょうか、ないのでしょうか？ ここには、先輩たちが多いから、皆さんが真のお父様とともに苦楽を共にして歩んでこられました、近くで待ってきた人と遠くで待ってきた人とは、その感じ方が同じでしょうか？ 例えば、「お父様」と一言、呼ぶだけでも心情的な感じ方が違うのです。

ところで、今まで皆さんが、どれほど、「お母様」と言って探してくれましたか？ どうですか、お母様をどれ位、探してくれましたか？（ため息）

天の父母様には夢がありました。人類の真の父母になりたかった夢です。実体として、体を持って父母になりたかったのです。天地創造をして、アダムとエバを創造なさり、アダムとエバに対して責任分担を与えられました。（それは）絶対に神様と一つになることでした。自分の考えがあっただけとはいけないのです。墮落とは自分を中心として考えることから始まったのです。

皆さんの父母様に対する心情世界も同じなのです。父母様と絶対的に一つになった人生を生きなければなりません。

しかし墮落した人類になってしまい、その墮落した人類をそのままにしておくことができない神様です。始めと終わりが同じおかたが神様であり、失敗があってはならない神様であられるため、救援摂理を進めざるを得ない中で、神様は強制的に「悔い改めて帰ってきなさい」ということのできない神様の立場だということです。人間自身が悟って（神様の願われる）その如くに生きなければなりません。

* * *

再臨のメシヤ…。イエス様が十字架で亡くなるときに、いつ来るということは（明確に）言われなかったのですが、「私は再び来る」と言われ、（神様は）2000年かけて再臨のメシヤを送られるようになりました。神様の蕩滅復帰摂理歴史は

6000年かかりました。

独り子を探したてる歴史があったとしたら独り娘を探したてる摂理歴史はなかったでしょうか？

このキリスト教の歴史は、独り娘を準備する摂理になるべきでした。しかしそのことを悟れなかったのです。

皆さんのために『真の父母経』を編纂して、私が「独り娘」であることを伝えました。

皆さんは、信じていますか？ 私が独り娘であることを信じていますか？ 今まで、統一教会では、「独生女」（独り娘）について（意識せずに）知りませんでした。再臨主のことは知っていましたが、独り娘のことは知りませんでした。

今までの摂理歴史は無知なる人間たちを探したて、責任を与え、発展させていくことを願われたのに、それをして差し上げる人がいませんでした。

真っ暗で、どこにいて、どこから来て、どこに行き、どの方向に行くべきなのか、何を間違えたのかも、よく知らないのです。知る由もないのです。

神様は失敗をすることができないので、キリスト教の2000年の歴史は独り子を探したてる歴史であり、最後の手段だったのです。

韓国がキリスト教を受け入れたのは李氏朝鮮時代です。その末期です。その当時、神靈的に満ちた神霊集団の中心は平壤中心の以北（北朝鮮）でした。

すべてのキリスト教徒たちは雲に乗ってくる再臨主を信じていました。天を見つめて待っていたのです。しかし神靈的なキリスト教徒たちは雲に乗ってくる再臨主ではなく、肉身を持ってやってくる再臨のメシヤを待ち望み、準備してきた教派がありました。

そんな中、特別に、独り娘を準備してきた教派があり、独り娘の誕生を明らかにするようになったのです。ある神靈的な牧師は、独生女が、私が誕生することを預言していたのです。

私が生まれた時、その瞬間にサタンが私のことも殺そうとしました。サタンが、お前が生まれたので、私が死にそうだ。だからお前を殺してやると言ったのです。

しかし大母様の霊力が強くて勝ちました。霊的な戦いをしながら汗をたくさんかきながら、失神してしまいそうの中で、趙氏ハルモニは、「出産が大変だな」と思っていたのですが、実際はサタンと戦っていたのであり、その戦いがどれほど大変な



ものだったのか…。

ですから私は生まれた時から違うのです。このことは誰にも言うてきませんでした。今真実を明らかにしているのです。

* * *

真のお父様が聖和されて霊界に行かれなければならないのに、もし清平の基盤がなかったとすれば、ロッテホテルでも借りて（聖和式を）しますか？ 13日間の行事をホテルでおこなうのですか？ 不可能です。しかも、暑い時期だったのです。

そして本郷苑も波州にするのですか？ 勝手にそういうことはできないというのです。そのようなことを考える人は誰もいなかったのです。36家庭、元老、ただただ、そのことを知っていたのは大母様しかいなかったのです。お父様が霊界に行かれることも知っていたので、（それに備えて）このような清平の摂理が存在したのです。しかし、そんな大母様の摂理はお父様を送って差し上げるまでなのです。

お父様が霊界に行かれて後、お支えする人が必要ではないですか？ それは誰がしますか？ 大母様がその役割もしなければならぬでしょう？ そうしたら、誰が地上で（責任をもちますか）

真の父母様の摂理は、霊界と肉界が一つとなり、清平の役事も真の父母様が役事をしていくのです。そのようになるのです。あっていますか、間違っていますか？

そして、みなさんも、いつまで誰かに寄りかかっているのですか。自分の責任は自分で果たさなければなりません。独り立ちしないといけません。真の父母様がやってくれるのではありません。大母様がするのではないのです。わかりましたか？

ですから、今後、（地上での）清平のすべての主人は私です。わかりますか。私が指示し、命令した通りに清平は進んでいくのです。わかりましたか？

それから、皆さんは私と一つにならなければならないのです。横で役事する人のことを見る必要はありません。それは皆さんの生きていくべき、未来の希望そのものなのです。

分かりましたね。清平修練苑は、大きく成長して行っています。真が現れ、真実が伝わっていく時代なのです。

父母様を中心として絶対的な信仰を持って歩いていくとき、天がそこに共にあられ、必ず発展していくのです。

神氏族メシヤ勝利を通じた 救国救世基盤造成の 元年としていきましょう

全国祝福家庭総連合会 総会長
ソン ヨンチョン
宋 龍天



愛する日本家庭連合の指導者及び祝福家庭、そして食口の皆様。

希望の2016年、明けましておめでとうございます。

昨年は、統一家庭において歴史的な一年でした。真のお父様聖和3周年の侍墓精誠3年を締めくくり、新しく出発した私達となりました。

去る3年を振り返ってみる時に、真のお父様の聖和以後、難しい時期を真のお母様を中心として「ウリヌンハナダ(私たちは一つだ)」の精神で、VISION2020 成就の為の基盤を造成してきた期間であったと思います。

まず、真のお母様は、天一国經典の編纂、天一国憲法の公布を通じた五苑体制の準備、そして、「天地鮮鶴苑」構想、聖和記念行事などを通して、真のお父様伝承事業を展開してこられ、圓母平愛財団奨学事業、天宙士官学校、トップガン修練会、天一国青年宣教師など、未来世代に投入してこられました。

そして、鮮鶴平和賞を制定し、気候問題、食糧問題など人類の未来に対する関心と準備をしてこられ、神氏族メシヤ推進を通じた人類救援の道を拓かれるなど、天一国の千年大計を立ててこられました。

また、母の国・日本は、これらの真の父母様の相対圏に立ち、去る3年間のVISION2020に対する青写真と7大運営指標という戦略を立てて、リーダーシップ改革と組織改革を行ってきました。

何よりも2015年は、日本の統一家庭が直面している様々な課題を5大危機として規定し、これを克服するための5大希望プロジェクトを推進してきました。

このような土台の上に、侍墓精誠3年を決算する聖和3周年の行事は、日本での真の父母様の業績をテーマとして、展示会と記念ミュージカルを制作し奉獻しました。

このような祝福家庭の皆様の絶対精誠は、聖和3周年を前にした8月26日、日本の全ての食口の皆様の21年間の悲願であった、「世界平和統一家庭連合」への名称変更という奇跡と祝福として現れました。

侍墓精誠の3年が過ぎ、家庭連合時代として出発した2016年は、希望と挑戦の年となることでしょう。

VISION2020の前半3年が終わり、後半の4年路程を出発する2016年は、まず初めに、食口と社会から信頼される統一運動となるために今まで推進してきたリーダーシップ改革と組織改革をさらに力強く推進すると共に、成熟した組織運営をしていきます。

2番目に、祝福家庭が幸せで、社会に貢献する教会づくりをするために、さらに家庭教育を充実させ、社会貢献活動を強化していきます。

3番目に、家庭集会を基盤として、地域社会、地域住民との信頼関係を積み、神氏族メシヤ活動の勝利を通じた救国救世基盤を造成していく元年としていきます。

このような活動を通して、本当に「幸せな家庭、健康な教会、国家と世界に貢献する統一運動」という、VISION2020を成就していく日本家庭連合をつくっていきます。

天の父母様と天上におられる真のお父様、そして地上におられる真のお母様を中心として一つになり、「神様の下の人類一家族」理想を実体的に成していく私達となりましょう。

2016年、天の父母様と真の父母様の祝福と恩寵が皆様と皆様の家庭、そして日本統一運動と日本国家に永遠に共にあることを懇切に祈願いたします。

真のお母様が願われる 三大目標に向かって 邁進しよう！

世界平和統一家庭連合 会長
徳野 英治



昨年1年間を振り返ってみて、真のお母様が一貫して強調された三大目標を改めて確認してみたいと思います。

第1の目標は、統一家庭ならびに家庭連合にとっての信仰の核心である真の父母様と、私達祝福家庭および食口との心情関係の強化であります。

真のお母様は先月12月25日、天正宮博物館でのクリスマス特別集会において、日本の12双、777双をはじめとする先輩達と婦人代表の方々に対して「あなた達がお父様を慕いお父様を求めたごとく、私をもっと積極的に求め、私ともっと深く一体化してほしい」と懇切に願われました。

また、ご長男文孝進様の奥様であられる文妍娥様(世界平和女性連合会長)は、お母様との心情一体化のためにはさらに深く正確に真のお母様の心情、事情、願いを理解することが重要であると、切々と語っておられます(月刊誌『世界家庭』1月号)。

私達祝福家庭、食口達が、もっと深く真のお母様と心情的に連結され一体化することを、お母様は切実に願っておられるのです。

第2の目標は、全ての祝福家庭および食口に願われている普遍的な責任と使命の完遂——それがまさしく神氏族メシヤの責任と使命の完遂であります。

真のお父様のみ言によれば、天一国の本質は真の父母様ご自身であります。しかし天一国の主人は、他ならぬ我々祝福家庭自体なのです。全ての祝福家庭が、少なくとも自らの氏族圏に真の父母を宣布・伝達し、統一原理のみ言で教育して祝福へと導き、430双の祝福家庭を自らの氏族圏から天に捧げることが願われているのです。

第3の目標は、神氏族メシヤの使命完遂の土台の上に、この日本における救国救世基盤を造成することであります。

「死ぬ前にその国を探し出し、1日だけでもそこで暮らしてから逝かなければならない」(『神様の祖国と一つの世界』2002年10月16日)。真のお父様はこのみ言で地上生活における究極の悲願を吐露しておられます。国がなければ、2000年間地球上をさまい歩いたユダヤ民族のように、私達統一食口も流浪の民とならざるを得ません。それ故に真のお母様は、2020年までに最低7カ国において救国救世基盤を築きたいと強く決意しておられるのです。

2013年10月、真のお母様が日本を公式的に訪問され、全国5カ所で講演会を終えられた後、神戸のホテルで韓国へ出発直前にしたためられた揮毫を私は忘れることが出来ません。

「ウリヌンハナダ！(私達はひとつだ！)」——。それがお母様の揮毫であり、5カ所の日本講演ツアーの結論としてのメッセージでありました。「ウリヌンハナダ！」の精神で前進すれば、何事も不可能なことはなく、必ずや天一国実現の夢が2020年を中心として花開き、実を結び、実現されて来るであります。

2016年こそ、私達の悲願である5大希望プロジェクトの目標を達成すべく、神氏族メシヤ活動を土台とした爆発的伝道を勝利し、真の家庭国民運動を軸とする家庭再建と青少年のための人格教育を推進することによって、救国救世の希望と喜びの烽火を上げてまいりましょう。

救国救世の旗印を掲げ、
未来のため挑戦し続けます！

副会長兼青年学生局長

田中 富広



激動の年！2016年の幕開けです。

過激派組織「イスラム国」による無差別テロが拡散し、日本も彼らの標的の一角に名を連ね、5月の伊勢志摩サミットに向けた緊張度は高まるばかりです。一方、南シナ海のシーレーンの安全を脅かす中国の行為は、日本のみならず国際社会の利益を脅かす難題です。

国内に目を転ずれば、なんとといっても1月の沖縄・宜野湾市長選挙があります。民主党政権の浅はかな国際感覚と稚拙な「政治主導」によって県民の大混乱を招き、天の摂理に大きな打撃を与えることになりました。摂理の主流を取り戻す重要な機会となる選挙です。

また、7月に控える参議院議員選挙は国運をかけた選挙となることは間違いありません。「国民連合政府」構想を打ち出して民主党を含めた野党の取り込みを図る日本共産党は、まるで赤ずきんちゃんを食い殺そうと、ツメを隠して甘い言葉ですり寄るオオカミのようです。彗星のごとく登場しメディアの注目を浴びる大学生集団「SEALDs」を最大限に利用し、野党勢力の“生血”を吸い取り続けることは必至です。

2016年、私達は救国救世の旗印を掲げ、摂理国家の使命を担い総進軍して参ります。

特に70年ぶりに選挙年齢が引き下げられ「18歳以上」となることにより、高校生の教育、大学生の学内活動等、時代に合わせた大きな変化が求められています。

祝福二世の団塊世代が学生期を通過している今、2020年までの取組みが未来を決することを自覚し挑戦し続けます。

本年もよろしくお願い致します。

＊ 神氏族メシヤを勝利し、
天一国開国の功臣となろう！

企画本部長
イソンマン
李 成萬



VISION2020! 7年路程の前半期の3年路程は、真のお母様の特別精誠による侍墓生活の勝利と共に確固たる礎を立てることができたと言えるでしょう。

これからの後半4年路程を通して、天一国の実体化、即ち天一国を安着させなければなりません。この全ては、子女である私達祝福家庭の役割であり、使命でもあります。真の父母様と同時代に生まれたことも、先祖と人類と後孫万代を代表して召命を受けたことも、この一時のためのものであると言えるでしょう。一方、この歴史的な摂理こそが全ての祝福家庭に与えられた祝福であり恵沢なのです。

天一国の安着の戦略は何でしょうか。言うまでもなく、全祝福家庭の神氏族メシヤ活動です。この摂理を違う言葉にすると救国救世運動であると言えます。

神氏族メシヤ摂理は、真のお父様の遺言であり、真のお母様が直接導いてくださっている世界的な次元での最優先的な課題なのです。天一国は、天の父母様と真の父母様の夢であり、統一家皆の夢なのです。

天国に入ることも重要ですが、それよりももっと重要なことは、天国を建設することだと語られました。神氏族メシヤ活動を遂行した家庭こそが天一国の主人であり、天一国開国の功臣だと言えるでしょう。

真の父母様の最大級の関心事であり、私たちが念願するところに天の父母様が役事されます。全能であられる天の父母様が共におられるならば、不可能はありません。行動のない信仰は死んだ信仰です。実践する現場で天は役事されます。一から、重要なことから、具体的に実践するのです。そして、勝利する時まで、諦めず持続していくのです。

皆が神氏族メシヤ勝利の高地に向かって前進する一年、天地人真の父母様を感動させてさしあげることのできる、2016年となることを願っています。

一人ひとりが成長し、
摂理を牽引する
“私” となろう！

総務局長

矢野 治佳



新年、明けましておめでとうございます。

VISION2020に向かう7年路程の前3年を終えました。真のお母様を中心とした侍墓3年路程を勝利的に越え、日本教会は天の祝福のように「世界平和統一家庭連合」への改称が許可されました。

また、昨年5つの危機が提示され、それを克服するために五大希望プロジェクトが出発した年でもありました。前3年が真の父母様が縦的基準を立てられる期間であれば、本年からの後4年は私たちの責任による横的基準を立てる期間となります。一層、天一国主人としての意識と努力が期待される年となります。

総務局は、成熟した組織運営と財政の安定化のために本年も、より一層努力を傾けてまいります。①職員の健康管理の徹底②教会施設の管理体制の充実③集計の正確化と活用④公用車の管理の推進⑤無理・無駄・ムラの排除——を具体的テーマとして取り組みます。

また、聖和の環境整備が急務です。①各地区委員会の立ち上げによる聖和文化の普及②地方聖和家庭会の設立③霊園建設委員会の立ち上げと地方霊園の設立——にも力を注ぎます。

さて、松下幸之助氏は、「お宅の会社は何を作っていますか？」と聞かれれば、「人を作っている会社です。ついでに電化製品を作っています」と答えなさいと指導されたことと聞きました。

私達が成長した分だけ摂理が進みます。「私から変わろう」がVISION2020の原点です。一人一人、一家庭一家庭が成長した喜びの報告を天に差し上げることの出来る一年として参りましょう。

家庭完成こそ
平和世界創出の鍵

家庭教育局長

佐野 邦雄



2016年明けましておめでとうございます。全国の祝福家庭・食口の皆様、心新たに新年を出発されたことと思います。

2015年度は、真のお母様の侍墓3年の精誠を通して絶対的一体化をなされた天地人真の父母様の大いなる恵沢を、すべての皆様が賜ったことと拝察申し上げます。

母の国日本は、聖和3周年を中心としていよいよ世界平和統一家庭連合時代に入り、名実ともに私たち祝福中心家庭が、本然の真の家庭完成にむけて前進すべき時を迎えました。

一方、私たちを取り巻く世界は、内外において荒れ狂っています。各地での紛争、テロリストによる破壊と恐怖、後を絶たない犯罪、拡大する社会格差、環境汚染と自然災害の危機など深刻な問題に苦しんでおります。そして米国、ロシアをはじめいかなる国もその収拾に苦慮しています。

これらの諸問題の元凶は、正に家庭の崩壊にあります。それは結婚そのものの破壊と連鎖し、離婚、非婚、同性婚の増加、そして必然的に少子高齢化社会への移行、若者世代の不安や経済的不満を生んでいます。

今日ほど真の父母様の勝利によってもたらされた「交差交代祝福結婚」と、真の愛を中心とする「三代圏理想家庭の完成」が切望される時はありません。

私たち祝福中心家庭が、身を以て真の父母を証すこと、すなわち真の家庭となって健全な成和青年を世に送り出すことこそ、唯一の平和世界創出の鍵です。

全国の皆さん、この一年、「家庭完成」への統一戦線を組み、全面的進撃を成して行きましょう。

伝道に総力を挙げて
大躍進しましょう！

伝道教育局長
バン サンイル
方 相逸



尊敬する全国の指導者、そして食口の皆様！
新年明けましておめでとうございます。
2016年は丙申年を迎えました。丙申年は赤い猿を意味するものであり、「60甲子」で計算すれば33番目に帰って来る年です。

33という数字は私たちがよく知っているように意味が本当に大きいです。

イエス様は33歳で、3年の公生涯を終えると共に復活されました。マホメットは63歳、孔子は73歳、孟子は83歳で生涯を終えられました。

また真のお父様は93歳で聖とされました。このように3数は完成数を意味する本当に深い意味があります。

大韓民国独立運動を主導した人物も33人であり、南米ウルグアイも独立運動を主導した人は33人でありました。このような意味で見ると、今年は大躍進をしなければならぬ重要な時期である事を知る事が出来ます。

また猿は昔から母性愛が強い動物として強調されて来ました。猿の雌は子が危険にさらされれば命を惜まず跳びこんで子を保護する程、強い母性を持っていると言います。また猿は夫婦の仲がとても良くて家族を大切にします。

このような意味ある丙申年の意味を込めて、伝道教育局では昨年終えることができなかった内容を具体的に本部と現場が疎通と共有をよく行い、飛躍的發展ができるように全力投入をしていきます。

また私たちの絶対的命である神氏族メシヤの使命完遂と1対1タブレット伝道を通した本格的な伝道出発にすることができるように総力戦を繰り広げます。

母の国である日本は、猿の母性愛のようにどんな困難があったとしても子供を守る心で、生命をかけて伝道を進めていきます。

尊敬する指導者、そして食口の皆様！

今年一年も皆様が願うすべての事が成されるように願いながら、皆様の家庭に天の父母様と真の父母様の無限なる愛と祝福が共にありますように祈願致します。

＊ 天運に乗って
大きな成果残す一年に

法務局長
岡村 信男



明けましておめでとうございます。

皆様の家庭と日本とアジア、世界の全人類が天の父母様と真の父母様の真の愛、生命、そして血統と一つとなり、神様の理想家庭の顕現と人類一家族世界の実現、天一国の実体化がより一層完成されるように心より祈願申し上げます。

昨年は家庭連合として、新しい出発が出来た歴史的な年となりました。今年は内外共に混乱の中から、天の摂理の方向性に従うものがより注目を浴びていくような情勢となり、真の父母様とそれに従う者の運勢が更に大きく現れる時になると確信しています。

70億人類を神の子女として教育し、それを産み変え、天国を造っていただける私たちとなりましょう。

「まず神の国と神の義とを求めなさい」(マタイ福音書6:33)とありますが、天一国経典『平和経』によれば、「神の国」とは神様の創造理想を完成した理想家庭の完成に基づく天宙平和理想王国(天一国)のことであり、「神の義」とは天一国を成すべしという天の召命だということです。

イエス様、真の父母様のみ言と願いを改めて再確認して、大きな成果を残すこの一年にして参りましょう。

天理と天道に従う、内外共のコンプライアンスを重要視して、天と地の両方から信頼を受ける祝福家庭となれるように努力したいものです。

また、新しい若い世代が希望を持って未来に向かっていくように準備したいものです。

今年も宜しくお祈りします。

家庭連合時代の
心情文化創造を

広報局長
鴨野 守



「国家と世界に貢献する統一運動」という大きなビジョンを掲げて進む私たちですが、社会はそのような団体と見てくれない——そのギャップを埋めることも、広報局のミッションであります。それゆえ今年も、積極的にアピールしていく予定です。

昨年、名称変更のニュースは、主要メディア21社と、ヤフーニュースなどネットニュース等で、約2000万人の人々に告知できました。今年、その土台のうえに、家庭連合会長の記者会見などを用意しております。

また、家庭教育局と連携して、「家庭・結婚問題」に焦点を絞ったサイトも立ち上げて、「家庭問題に強い家庭連合」「結婚問題に強い家庭連合」をアピールしていく所存です。

さらに、家庭連合時代にふさわしい心情文化の創造にも、尽力していく所存です。

いかなる人々も、美しいものを求め、感動を求めています。私たち家庭連合が、社会の人々が驚くほどの感動、美しい物語を提供することができれば、どれほど素晴らしいでしょうか。それが、真の父母様と、当法人を正しく理解してもらい最善の道であると思います。

さて、メディアは鏡のような存在です。年々、私たちの教団に関するネガティブな記事・報道が減り、中立公正なものが増えていることは、喜ばしい限りです。

各地で開催される様々な行事についても積極的に案内していき、マスコミにありのままの姿を見ってもらうことに躊躇しないで挑戦して参りましょう。

み言の通りに行えば
“万事亨通”

復興局長
アン ヨンソプ
安 榮燮



全国の責任者、食口の皆様。明けましておめでとうございます。

2015年は、真の父母様を中心に私たちが一つとなり、難関を越えることができたと思います。

2016年も、天の父母様と真の父母様、そして食口の皆様の願いが万事亨通する(すべてが順調に進む)ことを願っています。

真の父母様は、常に母の国・日本に天一国を安着させ、安住させるためには、私達の心の持ちようが重要だというみ言をくださいました。

「今からは、先に心配をすることは成されることはなく、霊界を味方にしていけばできないことはない」、そして「霊界が総再臨する非常事態を宣布したので、心配を先にする前に努力し、行動しなさい」といったみ言です。

昨年のクリスマスに、先輩家庭と婦人代表たちが集まった場で、真のお母様が「清平は、私が主管する」と語られましたが、いま清平でたくさんの霊的な役事が起こっているという証しを聞いています。

真の父母様のみ言の通りに実践をして、心配のない日本、母の国の食口となる一年にしましょう。

そして、救国救世を成すため、真の父母様が語られた「真の父母様を誇り、聖酒をもって祝福をしてあげなさい。たくさんの家庭が一度に同参し、日本の母の国の使命完遂、勝利解放を宣布しなければならぬ」というみ言のように、2016年、共に真の父母様のみ言通りに天の父母様を誇り、愛し、母の国の使命を完遂するための基盤をつくっていくことができる一年となるようにしていきましょう。

赤い猿の年、
幸せな家庭を成してください

＊ 教育力を高めて
社会にみ言を発信しましょう！

企画本部補佐官室 首席補佐官
クォン サンギ
権 相基



教会成長研究院長
阿部 美樹



明けましておめでとうございます。

今年は丙申年、赤い猿の年です。赤い色は、知恵を象徴する色です。また猿は、親子間の愛が深い動物とされています。

古代中国の晋の時代、隣国を征伐するために船で移動していた兵士が子猿を1匹捕まえました。すると、子猿の親猿がその船を百里あまりも追いかけて来ました。しかし、淋しそうに泣きながら、疲れて死んでしまいました。

兵士たちが、死んだ親猿の腹を切り開いてみると、腸の節々が切れていました。それ以降、「とても悲しくて辛いこと」を「断腸」と表現するようになったと言われています。

昨年、日本の統一家の21年間の願いであった、家庭連合時代の出発を果たすことができました。

家庭連合時代は、宗教圏を超える時代です。1994年、真の父母様の勝利圏の上に宣布された、家庭連合時代でしたが、サタンが今まで、家庭連合時代への移行をずっと妨害してきました。

そのため、去る21年間の日本統一運動は、凄まじい迫害を受けて来ました。しかし、日本の食口の皆様の絶対精誠と真のお母様の侍臺精誠の礎の上に、やっと私たちは、サタンの主管することのできない家庭連合時代への出発を果たすことができました。

過ぎし3年の間、真のお母様は、真のお父様の聖和という断腸の思いを越えられて全世界の統一を率いて来られました。母という立場は、子供のために傷心していることもできません。自身の体がいくら痛くても子供の食事を準備し、面倒を見てあげなければならないからです。

家庭連合時代、母の精神で家庭を健康にし、社会を明るくしていきましょう。まずは、私自身と私たちの家庭を幸せな家庭にすることで、私たちの周辺にその幸せを伝播していくことができるようになります。

赤い猿の年、皆様方が知恵深く、幸せな家庭を成されることを祈願しています。

明けましておめでとうございます。

昨年の歩みを振り返り、VISION2020 勝利に向けて精誠を尽くされる公職者をはじめとする全食口の皆様に心から御礼申し上げます。

教会成長研究院は、皆様の神氏族メシヤと母の国日本の使命完遂のために、少しでも力添えできればと思い歩んできました。

昨年は、教育コンテンツとして礼拝や原理講義の映像・PPT資料、信仰育成・家庭教育・祝福啓蒙などの各種資料作りを行いました。さらに、動画や歌・BGMなどにも力を入れて神霊と真理に満ちた教会作りを目指してきました。

「教育コンテンツサイト」には年間350近いコンテンツを掲載し、「真の父母様宣布文サイト」には教理・対策面の資料を掲載してきました。さらに「信仰生活サポートサイト Family-Library」においては新規向け資料を掲載しています。

今年は、教会の内部向け資料だけでなく、一般社会の外部向け啓蒙資料にも力を入れて発信する予定です。ビジョンにもあるように「国家と世界に貢献する家庭連合」としての役割を果たせるように、皆様と共に歩んで行きたいと思えます。

特に、昨年11月に開設された「家庭連合 Web 教会」においては礼拝説教の配信を続けていきます。日本国内だけでなく、海外の食口からも感想や意見が寄せられています。

また、教育コンテンツは本部からの発信だけでなく、全国各地で作られた素晴らしい教育資料や証しなども共有できるようにコミュニケーションを図っていきたく思います。

希望と挑戦の年、2016年の勝利誓う

「2016年度 新春全国責任者会議」開催



① 全国から集まった責任者
② 宋龍天総会長
③ 徳野英治会長
④ 李海玉総会長夫人
⑤ 笑顔を見せる参加者

「2016年度 新春全国責任者会議」が1月5、6日の2日間にわたって、宮崎台国際研修センター（川崎市）で開催され、牧会者や教区婦人代表、本部責任者、特別巡回師ら約470人が参加しました。

会議では、5つの希望プロジェクトの進捗状況や、青年学生伝道、救国救世基盤造成に関する報告を担当者が行い、その後、活発な質疑応答もなされました。

開講式では、初めに真のお母様のラスベガスにおけるみ言をビデオで視聴。続いて登壇した徳野英治会長はまず、真のお母様が日本食口に対する並々ならぬ愛情を注いでくださっていることへの感謝を表明。そのうえで、「5つのプロジェクトがあるが、すべての問題解決の糸口は、伝道にある。全国でぜひ、勝利のモデルケースを実現して欲しい」と強調、今年を「神氏族メシヤ活動元年」にしたい、と抱負を述べました。

また6日の閉講式では、李海玉・全国祝福家庭総連合会総会長夫人が講話の冒頭、「日本には、スポットライトを浴びず、人々から称賛を受けなかったとしても、天のために黙々と歩んでいる食口たちがいます。私は彼ら姿を見る度に感動を覚えます」と語り、日本の食口を慰勞。

また、「他の宗教は、神様から福を受ける方法を教えてくれますが、天の父母様の心情世界を教えてくれる宗教はありません。しかし、私たちには人を生かす力を持つ真理があります。真の生命の根源を持っているのです。真の父母様を通して役

事される天を見つめているならば“No Problem”（問題なし）です」と語りました。

宋龍天総会長は、「2016年は希望と挑戦の年」と題して、熱いメッセージを語りました。

その中で、宋総会長は「私たちは、新しく生まれ変わる自分になるかどうかの岐路に立たされています。変化は選択ではなく必須です。私たちは天一国時代のリーダーになるために変化しなければなりません」と強調。

さらに、「2016年のキーワードは選択と集中です」と指摘。具体的には「最も基礎となるのがリーダーシップ改革であり、それができずして成功はありません。一人のカリスマ指導者ではなく、オーケストラの指揮者のように皆の才能を引き出すリーダー。食口たちに自信を与え、やる気を出るように導きながら、彼らの成長を促す指導者となってください」と語りました。

最後に、宋総会長は「夢を夢で終わらせてはならない。必ず成し遂げてこそ夢だ」という内容の真のお父様のみ言を紹介。その上で、「一つになれば成せないことはありません。天が与えてくださった2016年、必ず飛躍する1年とするように決意していきましょう」と呼び掛けました。

参加者は、救国救世の国民運動を通じて、日本と世界に貢献する決意を新たにして、出発しました。

真のお父様の足跡訪ね、信仰の原点振り返る

「初詣 早稲田・高田馬場聖所巡礼」に300人参加



①高田馬場駅前に集まった参加者
②証しを行う増田勝「巡礼の会」会長(左)
③早稲田大学・大隈講堂前で

2016年正月、恒例となった「初詣 早稲田・高田馬場聖所巡礼」(主催・歴史編纂委員会、同巡礼の会)が行われました。

11年から始まった元旦の聖所巡礼は今年で6回目。今回は、元旦に参加するのが難しい人々のため、1月3日までの間に4回の巡礼を開催、合計で約300人が参加しました。

1回目の巡礼参加者は、元旦の午前11時にJR高田馬場駅前(東京・新宿)に集合。最初に主催者である歴史編纂委員会の井口康雄部長が巡礼の概要を説明し、次に真のお父様の聖和3周年記念行事の中で、真のお母様に報告されたお父様の生涯路程の展示パネルが紹介されました。

さらに、お父様が日本宣教のために送って下さった^{チェボンチュン}崔奉春(日本名・西川勝)宣教師から1959年12月に日本で最初に伝道された増田勝・同巡礼の会会長が挨拶。最後に高田馬場駅をバックにして全体で記念撮影を行い、巡礼に出発しました。

一行が最初に訪れたのは、1959年10月2日に日本統一教会(現・家庭連合)の最初の礼拝が捧げられた「雄鶏舎時計店」の跡地。ここでは、増田会長が入教当時の様子などを紹介しながら貴重な証しを行いました。続いて、旧戸塚警察署跡地を経由し、真のお父様の下宿先だった「三橋家」跡に向かいました。

途中、参加者たちは、歴史編纂委員の武田吉郎委員から、日本留学時代に誰よりも日本を愛された真のお父様の歩みについて説明を受けながら移動しました。

その後、早稲田大学の校内に入り、お父様が留学時代に学ばれた校舎跡などを見学し、大隈講堂前に到着しました。そこは1942年9月30日、お父様が早稲田大学附属早稲田高等学校の卒業式を終え、他の卒業生と共に記念写真に納められた場所です。巡礼者一行もそこで記念撮影を行って解散となりました。

今回の聖所巡礼には、ベビーカーを押しながら参加した母親をはじめ、小学生を含む家族連れや最高齢90歳の婦人など幅広い年齢層の人々が参加。また、初めて早稲田の地を訪れた参加者も多くいました。

参加者たちは「真のお父様のみ跡を訪ねて当時の心情をたどり、自分自身も信仰の原点に立ち返ることができました」「新年にふさわしい出発ができ、多くの恩恵を受けました」といった感想を述べていました。(報告:「早稲田・高田馬場」聖所巡礼の会)

全国の伝道の証し

20年の思いが1対1伝道&タブレットで祝福式に実る

南愛知教区金山家庭教会

現在69歳のWさんは、昨年11月29日の祝福式にご主人と参加することができました。

Wさんと最初に出会ったのは20年くらい前です。彼女が実践倫理の伝道で我が家を訪問した時、私は出会いを感じる何かがあって、すぐ家の中に入ってもらい話をしたのを覚えています。交流する中で、真のお母様の大会に2回参加して下さいましたが、み言を伝えきれずにいました。

その後、Wさんは信仰を世界救世教に変えました。そこで病気を治してもらったという強い確信を持っていたからです。

私がCIG復興団に入ってから、教育センターへ2、3度来ていただきましたが、「足が痛いから」と来なくなってしまいました。私がDVDを持参して家庭訪問したものの、5回目くらいで断られてしまいました。

それから、1対1伝道の証しを聞き、Wさんのために『原理講論』を買って揃え、1対1伝道にとりかかりました。

Wさんには「私も勉強したいから、一緒に聞いて」とお願いしました。

もともと気が良く素直な方なので、また聞いて下さることになりました。

Wさんの家では、飼い犬が吠えてうるさいので、いつもショッピングモールのオープンスペースでやるようになりました。

まずお祈りから始め、何度も何度も繰り返しながら説明しました。

例題もできるだけWさんの生活環境に合わせて解りやすく説明し、Wさんの意見も受け入れながら進めていきました。

Wさんも喜んで学び、週1回のペースで確実に聞いて下さるようになりました。み言を聞くなかで、神の存在についての理解が深まり、メシヤの存在、祝福の意義と価値等にも、だんだんと理解が進んでいきました。

さらに今までは、『原理講論』や『原理講論』要約訓読

チャート等の資料がとても重たかったのですが、ちょうどひと通り終わった頃に、本部からタブレット端末を頂きました。これは軽くて便利で、本ではわかりにくい内容も映像を通して学んだり、途中で止めて話すこともでき、何よりも場所を選ばず、何処でも視聴することができて本当に有難く思いました。また講義も短く区切られているので、本当に見せやすいのです。

こうして、昨年11月に行う祝福式の参加に向かうようになりました。

祝福式前にはタブレット端末で白井民夫講師の祝福講義を勉強してから参加していただきました。

現在、ご主人は透析中で、まだまだ乗り越えなければならぬ壁もありましたが、何よりもWさんが、ご主人と共に祝福を受けるのをとても喜んで望んでおられる気持ちが強く伝わってきましたし、以前は「宗教は嫌いだ」と言っていたご主人に祝福式後の感想を聞いてみると、「来てよかった」と嬉しそうに答えてくださいました。

これにはWさんもびっくりしていました。まさしく霊界が喜んでいました。

20年前に導ききれずにいた心の負債をなんとしても返したいという思いで、「この人にみ言を伝えないと申し訳ない」と、諦めないでコツコツと努力した結果、Wさんの努力を天が導いてくださったのでしよう。

何よりみ言の偉大な力を実感しています。

天の導きと、多くの方々の協力と支えのお陰で、Wさん夫妻が祝福の恵みに参席することができましたことを、心より感謝申し上げます。

